

人口減少社会を見据えた農村地域などのコミュニティ維持形成

地域名：栃木県宇都宮市富屋地区

パートナー名：宇都宮市都市整備部都市計画課

5班 コミュニティデザイン学科 柳沼晴香 岡凜朗
 社会基盤デザイン学科 高田章詩 中野緒未
 建築都市デザイン学科 蛭田海星 山下陽介

背景

市街化調整区域での地域コミュニティの活力低下

- 人口減少や少子高齢化等が進展すると...
- 病院や商業施設などの生活に必要な施設の維持が困難に
- 日常生活が不便になる
- さらなる人口の減少や生活利便性の低下を引き起こす

「将来にわたって住み慣れた場所で、安心して暮らし続けられる地域」を目指す。

(「市街化調整区域の整備及び保全の方針」より引用)

方法

1st cycle

広い観点から調査を行い、富屋地区の新たな可能性を模索した。

- [文献調査] 富屋地区の人口や世帯数、農業従事者数などを調べ、富屋地区の抱える課題を整理。
- [参考文献](各種HPや宇都宮市から情報提供)
 - ・人口統計情報 | 宇都宮市公式WEBサイト
 - ・農林業センサス | 農林水産省ホームページ
 - ・宇都宮市統計データバンク
 - ・住民愛着度 市政に関する世論調査
- [空き家調査] 世帯数の減少から、空き家問題に関心を広げ、富屋地区における空き家の数や分布を調査。

2nd cycle

地域の繋がりや買い物に着目し、アンケート調査を行った。

- [アンケート調査]
 - [調査目的] 地域内の繋がりについて 日常生活の利便性について。
 - [対象]
 - ・富屋地区の各自治会長及び班長 (全13地区)
 - ・まちづくり連絡協議会の方々 (合計216世帯)
- (配布：648通 回収：154通)

3rd cycle

コミュニティ維持に着目し、参考事例を基に独自の提案を考案した。

- [事例調査] インターネットを用いて、「小さな拠点作り」の事例調査。
- [参考文献] 「小さな拠点づくり事例集」 (<http://www.pref.tochigi.lg.jp/a03/houdou/documents/jireishu.pdf>)
- [調査の着目点]
 - ・地域住民の交流の場や活動する拠点の管理・運営を行っている
 - ・農産物を販売している

提案

高齢者支援

空き家の有効活用

コミュニティ維持形成

空き家を再利用した地域交流施設 (Tomiya House)

- ・ボランティアを募集、運営
 - ゆくゆくは地域住民に協力を要請し運営を行う。
- ・空き家の活用
 - 地域資源の有効利用
 - 市街化調整区域の課題をクリア
- ・富屋地区内に点在
 - 交流施設を1.5km間隔で日光街道周辺に配置することで、多くの人々が容易にアクセスすることができ、かつ徒歩でも利用可能
- ・集会所に直売所を併設させた施設
 - 野菜や余り物などを持ち寄ることでご近所付き合いのような感覚に

コミュニティ維持形成へ

目的

- ・富屋地区の生活利便性向上やコミュニティの維持形成
- ・地域住民同士の交流の活発化を目指す

人口減少が進んでも地域内のつながりやコミュニティの活力が衰退しないまちづくり

分析結果

市街化調整区域について

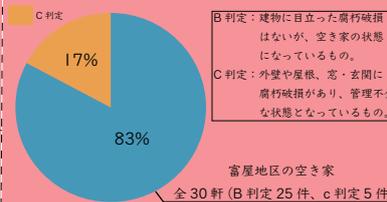
市街化を抑制すべき区域であり、新たな開発や建築行為が制限される

[文献調査により明らかとなった課題]

- ・人口、世帯数の減少
- ・農業の衰退

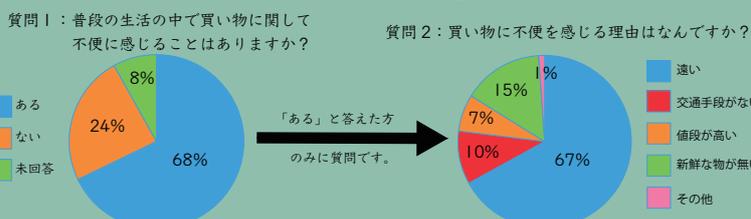
富屋の現状の課題が明確になった。

富屋地区の空き家区分



状態の良い空き家が複数軒存在し、空き家再利用の可能性を感じた。

アンケート結果 「15項目から抜粋」 (回収率23.7%)



近くにお店が無く、買い物に不便を感じている方が多い結果となった。この問題を解決するために、富屋地区内に店を作る必要があると考える。

参考事例 「小さな拠点づくり」

- {鹿沼市南押原地区の小さな拠点づくり}
 - コミュニティビジネス
 - ・地域で生産された農産物を販売し、買い物弱者のための買い物支援を行う。
 - ・地域の雇用、収入を確保し自主、自立的な運営を図る。
- {茂木町の道の駅を核とした小さな拠点づくり}
 - 高齢者支援
 - ・農産物直売所を拠点とした集荷や宅配システムを構築することにより、自力での移動が困難な高齢農業者の農産物出荷を可能にする。

コミュニティの維持形成

高齢者に優しい地域形成

これらの事例を参考に、富屋地区をより良くするための提案を考える。